

焼岳の火山活動解説資料（平成 30 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

2017 年 8 月上旬に、規模は小さいながらも低周波地震とともに噴気が観測されました。その後、低周波地震は観測されていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - 、図 4）

噴気活動に特段の変化はありません。

北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 100m 以下で経過しています。また、黒谷火口で 7、15、18、24 日に高さ 20～30m の弱い噴気を観測しました。同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 80m 以下で経過しています。

- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 2 - ~ 、図 4）

GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 7 月分）は平成 30 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。



図1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況
(上左図: 6月18日 焼岳北監視カメラ、上右図: 6月7日 焼岳東監視カメラ、
下左図: 6月7日 焼岳北監視カメラ、下右図: 6月23日 焼岳南西斜面監視カメラ)

【地震の計数基準の変遷】開始	2010年8月2日~2010年9月21日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P2秒以内
変更	2010年9月22日~2011年3月10日	中尾振幅0.5 μ m/s以上、S-P1秒以内
変更	2011年3月11日~2013年9月30日	中尾振幅3.0 μ m/s以上、S-P1秒以内
変更	2013年10月1日~	中尾振幅2.0 μ m/s以上、S-P1秒以内

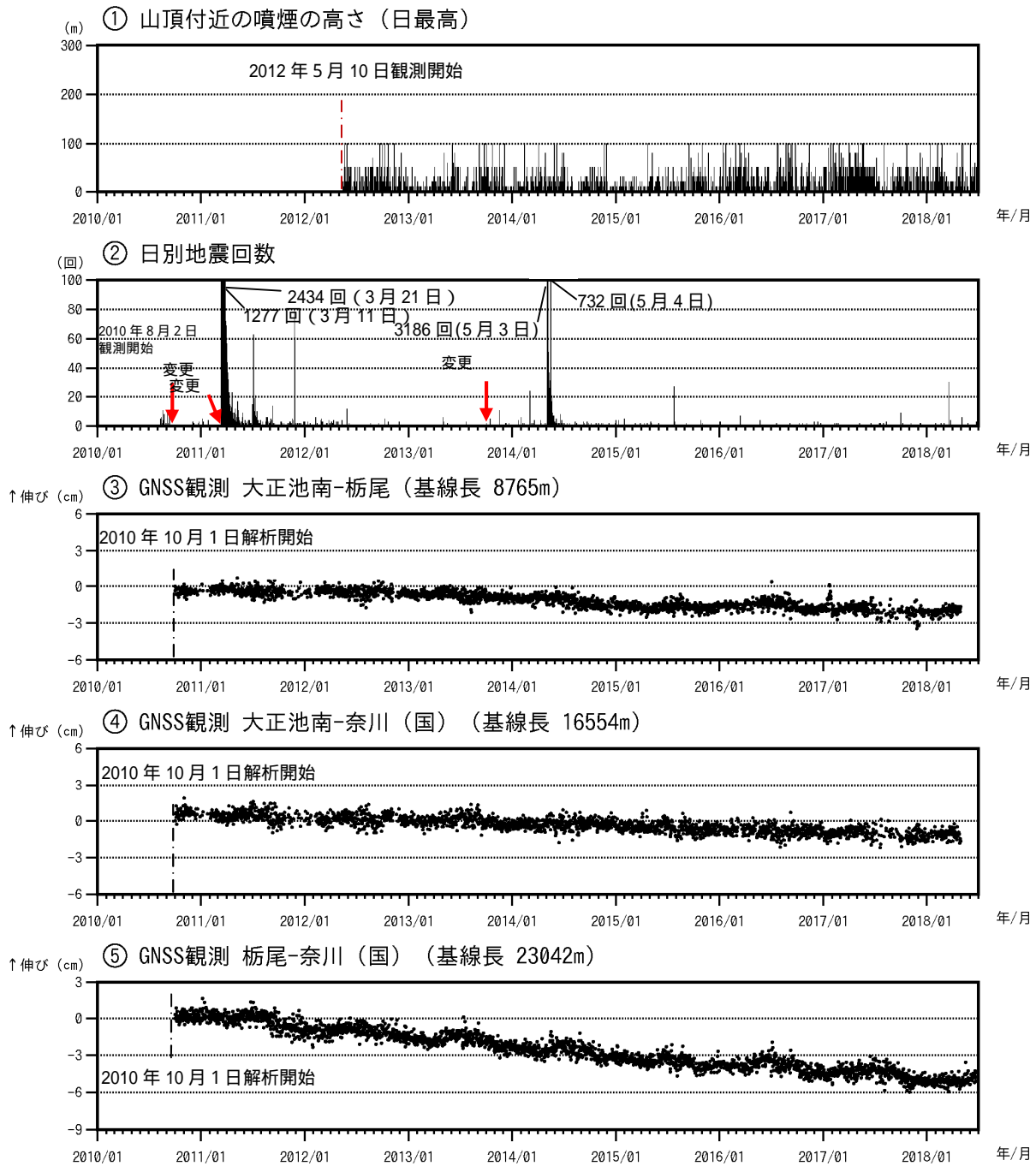


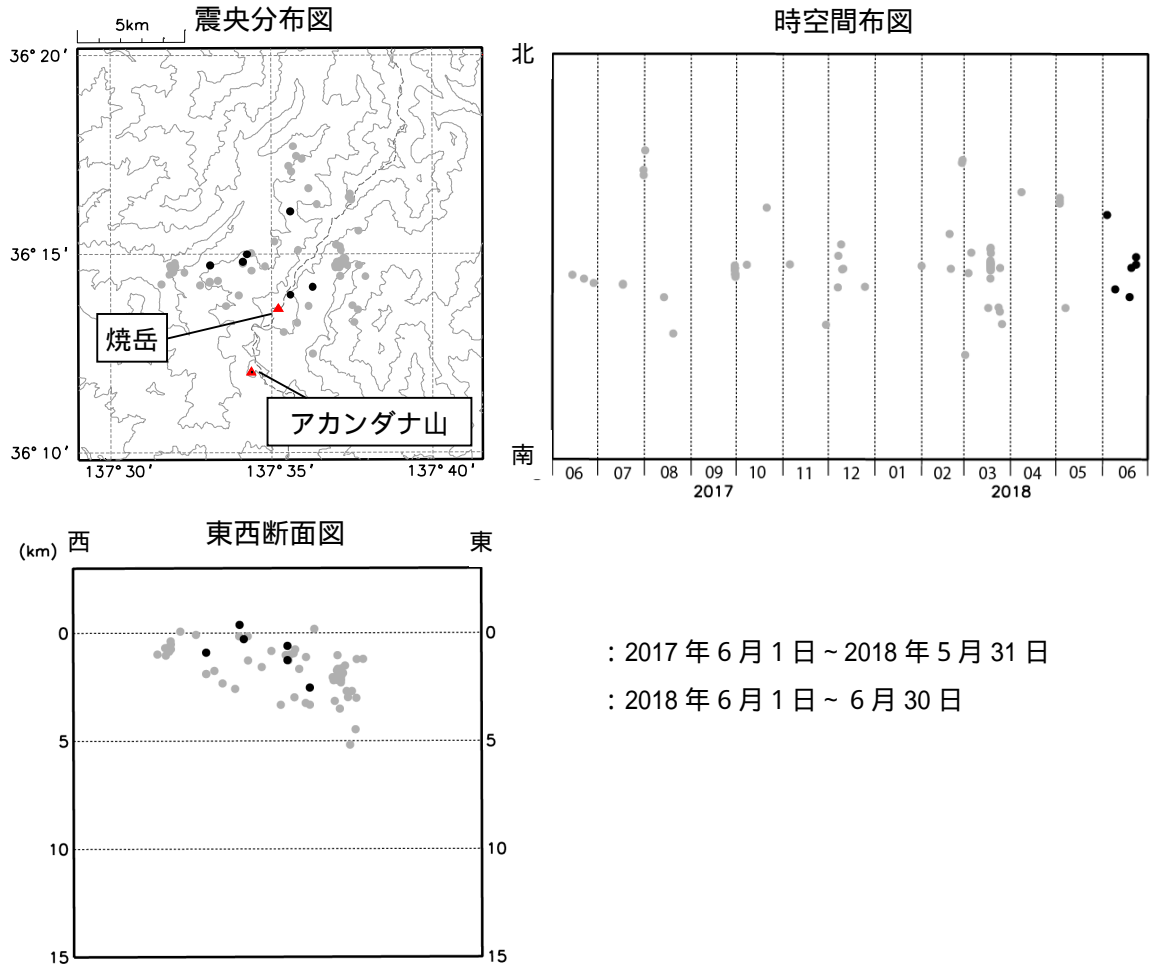
図2 焼岳 火山活動経過図(2010年8月2日~2018年6月30日)

~ GNSS連続観測による基線長変化(国): 国土地理院

図4のGNSS基線 ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

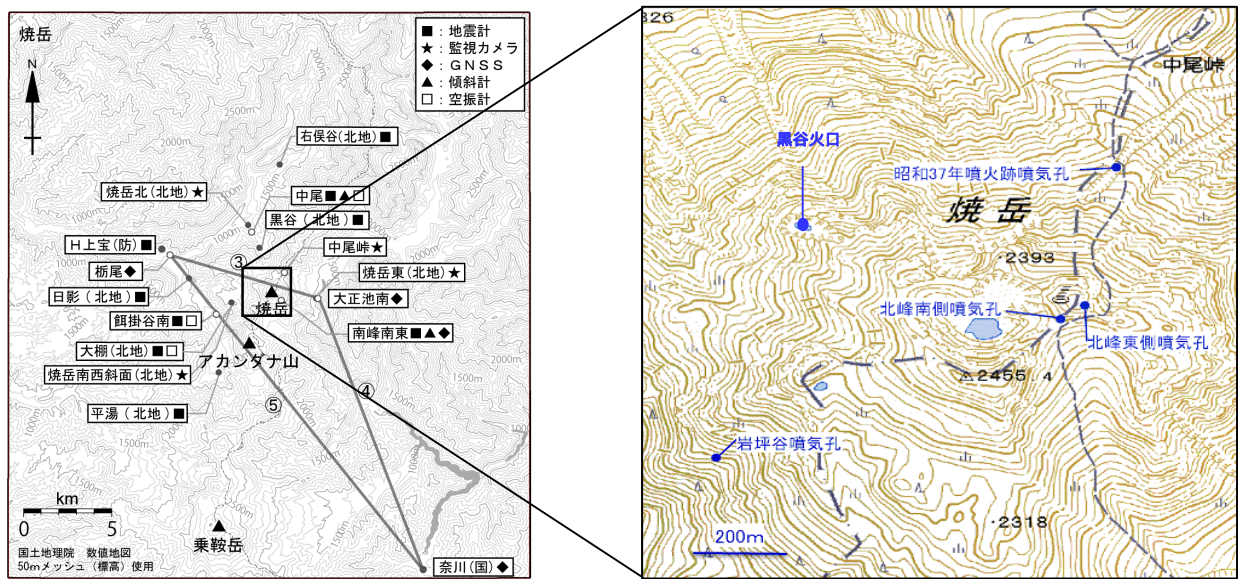
・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。

・GNSS観測の大正池南観測点は4月30日から障害になっています。



: 2017年6月1日～2018年5月31日
 : 2018年6月1日～6月30日

図3 焼岳 震源分布図(2017年6月1日～2018年6月30日)



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(北地): 北陸地方整備局

図4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
 GNSS基線 ~ は図2の ~ に対応しています。